

平成 29 年度沖縄県若年性認知症専門職研修会 那覇市開催 報告書

- 1 研修会名：「平成 29 年度沖縄県若年性認知症専門職研修会」
- 2 研修会日時：2017年8月11日（金）13時～17時（受付12時半 開始）
会場：天久台病院（〒900-0005 那覇市天久 1123 番地）
- 3 目的：広く若年性認知症について啓発を行うと同時に専門職へ研修を行うことで、若年性認知症の一人ひとりがその状態に応じた適切な支援を受けられることを目的とする。

4 プログラム

	開始 時間	終了 時間	内 容	所要時 間	講 師
	13:00	13:10	オリエンテーション	10 分	中野（事業担当）
1	13:10	14:30	疾患の理解	80 分	・医師 天久台病院 平良直人医師
	14:30	14:40	休憩	10 分	
2	14:40	16:20	事例発表 ・本人の気持ち ・家族の想い ・支援者として就労支援について	100 分	・当事者 0 氏 ・家族 娘さん ・支援者並びに司会（コーディネーター中野）
3	16:30	16:50	若年性認知症の県内の事情	30 分	若年性認知症支援コーディネーター中野
	16:50	17:00	まとめ アンケート記入等	10 分	
	17:00		終了		

5. 広報：チラシ郵送 5/15 570 件、 郵送での追加広報 7/10 30 件
申し込み締め切り 8/7（月）
申し込み者 83 名

6. 当日の様子 当日参加者数 61名
内訳 医療 20名
介護保険事業所 15名
行政 20名
労働・企業 6名

7. 講義内容

疾患の理解 天久台病院 精神科医師 平良直人医師

「若年性認知症とは」という基礎をはじめ、認知症治療病棟へ入院されたケースは重度であるが、抗精神科薬を使わざる終えない状況に至った背景分析をもとに、どのような支援が必要であったかを考えるケースを複数例、提示頂いた。

当事者発表

当事者 0 さん、 家族 娘さん、 H25 年からの支援者として 中野

59 才でアルツハイマー型認知症と診断されたケアマネジャー。職場の上司が気づき、受診をすすめ、就労支援について家族会に相談を求めたケースである。現在 64 才、パートで就労継続される。独立行政法人高齢者・障害・求職者雇用支援機構より報告される「若年性認知症を発症した人の就労継続のために」で好事例として紹介される全国 14 例のなかの一人。発症当時から、これまでの経過を報告された。特に障害者職業センターで評価を受け、就労準備を経て、ハローワークから再就職に至るまで、「新しい経験でワクワクした」と当時の気持ちや考え方を発表された。

若年性認知症の県内の事情 沖縄県若年性認知症支援コーディネーター中野小織

平成 29 年 4 月 3 日より 7 月 31 日までの相談件数などのデーターをもとに、現状を報告。相談内容のほとんどは「利用出来るサービスについて」であり、若年性認知症のかたの行き場のない現状について、情報を共有頂いた。

8. 研修資料について

テキストは『本人・家族のための若年性認知症支援ハンドブック（沖縄県）』

各講義枠で準備されたスライドは、資料として配付は致しておりません。ご了承下さい。

参加費は無料。

9. アンケート結果 回答 56 名 回収率 91.8%

問 本日の内容について感想を教えてください

	よかった	ふつう	よくなかった	無記入（部分的）
疾患の理解	92.6%	1.8%	0%	3.6%
当事者発表	100%	0%	0%	0%
県内事情	89.3%	7.1%	0%	3.6%

問 沖縄県の若年認知症の方々の支援が充実するために、今後、沖縄県若年性認知症支援推進事業で、どのような企画があると良いと思われますか

- ・ 40～64 歳までの方、若年性認知症のデイサービスを是非、作りたい。居場所づくりをしたい。（介護福祉士）
- ・ 当事者の生の声を聞けて、本当に良かったです。次年度も引き続き企画してほしい。（介護福祉士）
- ・ 地域で若年性認知症の方を知らない現実があり、どうすればいいんだろうと考えさせられた。10 月の講演会にたくさんの方に参加して頂きたいと強く思いました。0 さんの生き方、見習っていきます。ステキすぎます。（地域包括）
- ・ 行政、課長・係長クラスにむけて、今日の内容を必ず参加してもらうように県庁とかで出

来ませんか。回数が増えると参加しやすいです。コーディネーターがもっと増えるといいです（認知症地域支援推進員）

・本日のようなこれまでの支援方法、経過、本人の発表、県内の事情について、大変勉強になります。その上で、専門職として力になりうる協力の呼びかけもすることで、又、沖縄の支援がかわっていくのではないのでしょうか。（認知症地域支援推進員）

・現在行われている事業でも、知らないことが多くあります。認知症に関わりのない人々も、もっと巻き込んで、社会の中のひとつの取り組みができるように啓発していくことも大切だと感じました。（産業保健師）

・今回の新たな情報や得られた知識も私自身多かったです。一般向けにも、知識や現状をわかりやすく学べる機会があると、若年性認知症への理解もより広がるのかなと思いました。（産業保健師）

・研修会とてもよかったです。ショッピングモール等でパネル展をして、若年性認知症について、ざっと知ってもらうのも良いかなと思います。同時に、脳血管性認知症や、アルコール性認知症あたりは、予防しやすくなるのかなと思いました。（精神保健福祉士）

・認知症相談コールセンター等、あったらよいと思います。認知症かな？と不安に思われる方、または、診断うけながらも働いていて、日中相談出来ない方のためにも、土日や夜 10 時位まででも、相談対応出来る時間帯の枠を増やして、対応者も増やしていくと良いと思います。また、若年性認知症専門員研修を、県内でも実施して頂けるとありがたいです。（認知症ケア専門士）

・4月から包括で認知症地域支援推進員として配属となり、不安な気持ちでいっぱいだったのですが、0さんの「認知症になってもこわくない」の言葉に多くのヒントが込められていたように感じます。（認知症地域支援推進員）

・就労支援コーディネーターとハローワークとの連携で本人に提供できるメニューが増えてくれるとありがたい。大変、貴重な情報をありがとうございました。自分が住んでいる地域の資源すら分っていないので、これから情報を見ていきたいと思います。（作業療法士）

・若年性認知症の認知がまだまだ一般住民の方々にないと思うので、普及啓発していくことが必要だと感じました。専門職より雇用側の方が困っていることが多いと思うので、企業向けの講演会をしたいです。（社会福祉士）

・今日のプログラムにあったように、本人、また本人の家族を招いた発表に特化した研修会が増えたら良いと思います。（ケアマネ）

・就労事業所と介護事業所など障がいと介護保険のコラボのシンポジウムなど、支援の視点の違いがあるように感じるので、考え方のすりあわせなどがあると良いなと思います（作業療法士）

・今年の5月より、新規で利用になった65歳の男性の方は、何年か前に若年性認知症の診断を受けたが、包括に行っても支援に繋がらなかったようです。この方は重度のレビー小体で、集団生活が厳しい所もありますが、何とか個別ケアで在宅生活を支えています。この方とご家族のためにも、若年性対応のデイサービスが出来るといいと思います。（認知症対応型デイサービス 責任者）

・本日の研修、事例をふまえた内容で症状を理解しやすかったです。意味性認知症というのをはじめて聞きました。勉強になりました。仕事や自助グループなど本人の役割があると言うことに感動しました。認知症になっても出来ることはたくさんあると、当事者、家族、周りの人に伝えていけたらと思いました。企画、当事者の発表。（保健師）

- ・経済的な面からも定年延長、65才までの就労者も増える中、当該疾患の対象も増えてくる事が予想される。企業への啓発事業を専門職からのアプローチだけでなく、経営職（経済団体、労働局、商工会など）への取組みも理解が早いのかと考えます。障害者雇用枠の精神保健福祉士算定のアップで企業にもメリット枠となることなど）そのあたりのアプローチを！（保健師）
- ・とても勉強になった研修でした。認知症カフェを地域で開催していますが、認知症当事者のかたが一人で会場に来ることがとても難しいと感じました。認知症当事者が本当に利用したいときに、一人でも来れる様な場所があれば、とてもいいなと常に思っています。タクシー会社やバス会社の協力が得られるとすごく良くなると思っています。（保健師）
- ・本人交流会、行き場づくりの充実のための家族、支援者向けの企画があれば是非お願いします。デイケアは嫌や、行き場がないという方の相談が多いので。（デイケア相談員）
- ・今後の企画では、当事者の体験と家族の体験をふんだんに盛り込んだ企画が欲しい。病院への苦情、社会資源への要望、聞きたいです。（精神保健福祉士）
- ・認知症の人達だけでなく、地域の子ども達、障害者の人達、若者もみんなでソフトボール大会など企画してほしい。一緒にカフェを作りたい。（認知症地域支援推進員）
- ・支援者が同じ方向性を持てる（現状の共有、課題の共有）、また支援者同士が連携し、繋がっていきけるような交流勉強会を企画。（認知症地域支援推進員）
- ・企業や地域との交流の場があるといいと思う（介護福祉士）
- ・若年性認知症がこんなに多いとは思いませんでした。沖縄県は生活習慣病からの認知症も多いと聞いています。今後も職場で相談にのれるよう情報を集めたいと思います（保健師）
- ・ソフトボールチームに所属しています。シニア80代もいます。楽しく試合、ちょっと指導もできます。チームメイトにも励みになります。職場でストレスチェックと同じように認知症のアンケートも実施してみます。（保健師）
- ・最新のリハビリについて知りたいと思います。当事者の方の声や、熱い支援者の方のお話を聞いて、私も私の場所で頑張っていこうと、改めて思いました。（臨床心理士）
- ・回復可能な認知症についての勉強会があれば助かります。希な疾患もあるので実際のケースに出会える事も少ないのですが、大事だと思います。（臨床心理士）
- ・就労支援事業所の発表があると良いと思います。活動内容や支援の関わりなど。（医療ソーシャルワーカー）
- ・当事者家族と地域が交流出来る場がたくさん増えると、地域の理解、支援の幅が広がっていくと思う。（医療ソーシャルワーカー）
- ・期待していた以上にすばらしい内容でした。大城さんのケースと同様に、0さん支援者、娘さんにも感銘を受け刺激を受けました。医師の話もそうですが、若年性のかたに関わる機会は病院で働いても少ないです。（実態把握できていないという問題もありますが）。認知症のタイプにおいても症状や関わり方が重要な点も、今後も是非多くの事例にふれる機会があればありがたいと思います。「就労支援」大事、予防にも有効だと改めて認識させられました。（精神保健福祉士）
- ・フリーペーパー、ソーシャルネットワークサービスなどで発信してみてもどうか。「べてるの家」等の成功したビジネスモデルを参考にしてみてもどうか。（グループホーム介護職）
- ・精神薬について。（ケアマネ）
- ・支援者の立場として、どこをゴールに設定し、どのような結果になるのか正直みえてこない部分がありましたが、今回の当事者発表によりイメージすることができ、非常に勉強になりました。今後もこのような当事者発表を聞ける場が増えると良いかと思います。（精神保

健福祉士)

- ・介護事業所がプログラムをどのように工夫しながら受入れているのか、就労支援施設がよいのか、受入れ側の声を聞きたい。(認知症地域支援推進員)
- ・人事や産業保健を担当する職種へ向けた今回のような研修がもっとあればと思いました。早期発見して、治療や支援を受けながら就労を継続することが、認知症の進行を緩やかにできることを知りました。Oさん親子の明るさと行動力に元気をもらいました。(保健師)
- ・支援の方法、介入の方法など具体的な例があると良い。協力してくれる企業の例。(精神保健福祉士)
- ・若年性認知症のかたが行う認知症サポーター養成講座。認知症を患った方々の頑張りの報告の場ができたらいいな。まだまだ頑張れること、認知症を患ったからこそ出来る事などを支援する企画、子供達に若年性認知症を知ってもらうための企画。(認知症地域支援推進員)
- ・質問にあった「受診の促しかた」や「告知」について勉強になりました。業務の上で受診に繋ぐことが難しい場合が多いので、脳外科やタイミングを待つという方法を参考にしたいと思いました。また、往診について、是非、対応医療機関が増えると助かります。受診拒否は疾患の特徴でもあると思うので、医療機関、家族、支援者でご本人へ促しができると良いと思います。(社会福祉士)
- ・若年性認知症の周知、現状報告を知る今回のような研修を継続してもらえたら良いと思う。現状報告が聞けるのは、とても参考になった。(認知症地域支援推進員)
- ・家族会活動の場が、地域単位で地域の人も巻き込んで参加が行える場が増えたらいいなと思います。治療しながら働くことができる職場がふえたらいいな。啓発活動を増やしていく。(ケアマネ)
- ・企業向けの支援(臨床心理士)
- ・県内に若年性の方々の専門の施設、入所やデイサービスがあったらと思います。(ケアマネ)
- ・働く時間が増えるようになったらいいと感じた。(介護職)
- ・周知、認知症アップ、広報、CM広告など認知症が上がることで「私ももしかして」と気づかれることもあるのかなと、そうすれば医療にも繋ぎやすくなるのかな。(障害者虐待相談支援員)
- ・職場内での理解や支援を深めるために、就業支援など、どのような取り組みが必要か知りたい。(臨床心理士)
- ・誰でもできるスポーツ大会など。若年性認知症デイケアのサービスが早くできるといいですね。(ケアマネ)
- ・今回のようにケースを通して学ぶ、イメージができると良い。質問にあったように受診にどうやって繋げるか、とても悩むと思うがケースバイケースであるが、複数の事例を通し共有出来ると良い。(精神保健福祉士)
- ・職場で気になる人がいたとき、その人をどのように支援していったらよいかについて、もう少し詳しく知りたい。事例を通して。(保健師)

10. まとめ(責任者所感) :

前年度のアンケート結果より、今年度は医師による「疾患の理解」についての講義を80分に拡大しお届けしました。治療の事例が多く含まれた大変充実した内容でみなさんの理解の一助になったものと思われます。また今回の当事者発表は、今回

初めて認知症と公表した方の登壇で、当人、娘さんと支援者の3名で、これまでの経過について、お届け致しました。明るく前を向き、障害者職業センターでの評価準備を経て、現在パートで働き続ける64才の元ケアマネジャーは、介護保険をまだ利用したくないと言い、自身の週間プログラムを自身で作り上げています。職場から「何が出来るのか」と問われ、泣いて過ごした時期のことは「忘れました」と明るく言い放し、会場から笑いを誘う場面もありましたが、「話しを聞くときは専門職としてではなく、友人として聞いて欲しい」というOさんからのメッセージには、ハッとさせられました。

今回の沖縄県若年性認知症支援推進事業による講演会は、若年性認知症の方々を支えるそれぞれの立場から、活動について発表されます。

テーマ「若年性認知症 県内当事者の活動報告」（平成10月6日（金）浦添市てだこホール市民交流室 16時開始 終了20時）

是非、多くの方にご参加頂きたいと願います。



以上